

山元いちご農園 株式会社



1 現在の経営内容等

(1) 経営理念、キャッチフレーズ等

震災からの復興を目指す企業として、地域農業を牽引し、社会に貢献できる企業を目指す。

- 支えてもらう復興から自立した復興へ向けて先頭をきって活動する。
- 山元いちごを縁にして出会えた人たちとの一瞬一瞬の繋がりを大切にする。
- 支え合いに大切な人の優しさ、思いやり、愛しみの「仁の心」を大切にする。

(2) 栽培技術の特長

- 高設栽培（養液栽培）を行っている。
- エネルギーコスト削減のため太陽熱温水器を利用した熱交換システムを導入している。
- 環境制御技術、IPM（総合的病害虫・雑草管理）技術に取り組んでいる。

(3) 販売の特長

独自の販路を開拓し、仲卸、スーパー、パン・菓子製造業者等にいちごと加工品を販売している。

(4) 経営組織の特長

津波でいちご栽培施設を流失した個別経営農家が、協業経営での再建を目指し設立された。法人としての認定農業者であり、取締役3人は全員被災農家である。

(5) 労務管理の特長

組織の中で技術面については、技術部長を中心として班編制を作り、技術の習得や作業効率を高めるための管理をしている。

(6) 経営管理の特長

事務体制を強化して、税理士とともに経営の健全化に向けた経理体制の強化を図るため、計画を立てて取り組んでいる。

(7) その他の特長

- 地域の他のいちご生産法人との連携や町との連携強化を図って、いちごの情報発信に努めている。
- 研修を受け入れて、復興状況、地域農業、いちごの栽培についても具体的に説明をし、情報発信に努めている。
- 東北の各法人の皆さんからの情報や、外国に行つての先進技術の勉強や、各研修会にも積極的に参加して情報収集に努めている。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

- 平成23年3月11日の津波で個別経営のいちご栽培施設が全壊、流出した。
- 平成23年5月に震災復旧事業の交付金要綱要領が制定された。
- 平成23年6月に被災農家4人で山元いちご農園株式会社を設立した。

経営のプロフィール

経営概要

- いちご（1.7ha・85t）

主な施設・機械の保有

- 低コスト耐候性ハウス（2,160㎡×8棟）
- 夜冷育苗施設（168㎡×1棟）

構成員等

構成員3名、常時雇用10名、パート14名

法人設立年月日

平成23年6月20日設立

認定農業者認定年月日

平成23年9月28日

資本金

300万円

販売額

8,500万円（平成24年度）

役員名

代表取締役：岩佐 隆、他取締役2名

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

東日本大震災農業生産対策交付金
宮城県農業生産復旧緊急対策事業補助金

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

- 津波で壊滅的被害を受けたいちご栽培施設を、「個人の資力・労力により復旧するのは、極めて困難」と判断。「震災復旧事業（東日本大震災農業生産対策交付金等）を活用した、協業によるいちご経営の再建」を目指し、法人を設立した。
- 平成23年7月に交付金事業に応募。山元町、宮城県農業公社、宮城県巨理農業改良普及センターの支援を得て事業計画を作成し、同年10月に割当内示を受けて事業着手。工事を先行させた2棟では、年内に定植し、翌3月に収穫を開始した。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中（取組中）の対処方策

- いちご生産技術向上により、生産量の増を図りたい。
- 生産コストの削減のために、エネルギーコストの削減、人件費の軽減を図りたい。

(2) 今後に向けての経営戦略

- 6次化施設「ベリーベリーラボ」の建設を推進している。加工、直売所、スイーツ販売、研修施設を兼ね備えた施設で、地域交流と情報発信の拠点としたい。
- 観光いちご園の充実や誘客増を図りたい。

（調査：巨理農業改良普及センター）

略図



山元いちご農園株式会社

巨理郡山元町山寺字稲実60番地
TEL 0223-37-4356 (FAX兼用)
URL <http://yamamoto-ichigo.com/>
E-mail info@ichigo-nouen.com

視察受入条件

受入時期や曜日、時間等の制限：特になし
視察料：無
申込先：電話で直接申込み